

学校だより

光輝燦然

～ 磨け！自分の色 ～

第34号 令和4年11月22日（火）発行 発行責任者 校長 馬場廣明

ふくしま駅伝・須賀川市チーム、市の部で第6位でした！

本校から出場した3名、たいへんに頑張りました。大会当日の朝、選手兼コーチである●●●●さんより私にメールが入り、選手たちの様子や今までの頑張りについてご連絡がありました。また、大会終了後にも生徒たちの頑張りや結果についてのご報告がありました。テレビや翌日の新聞記事からもその頑強がよく理解できました。おそらく、年末に？ふくしま駅伝のダイジェストがテレビ放送されるものと思いますので、再度、その喜びを共に味わいたと思います。本当にお疲れさまでした。



6区：男子区間(8.3 km)	●● ●● さん（保護者／自衛隊郡山）
9区：中学生女子区間(3.0 km)	●● ●● さん（2の3）
9区：中学生女子区間(3.0 km)	●●●● さん（2の3）
12区：男子区間(7.0 km)	●● ●● さん（学法石川高校2年）
14区：男子区間(5.7 km)	●● ●● さん（卒業生／須賀川広域消防）
15区：女子区間(3.4 km)	●● ●● さん（2の1）
16区：男子区間(8.4 km)	●● ●● さん（卒業生／須賀川信用金庫）

※ ●●●●さん、何と中学2年生からふくしま駅伝に出場しており、今年で24回目の出場だそうです。本当に「継続は力なり」です。そう簡単には達成できない大記録であると思います。●●さん・●●さん・●●さんは西中時代の全国駅伝大会出場メンバーの同級生です。

※ 前回の学校だよりで●●●●さん（2の3）のご紹介が抜けていました。●●さんは昨年引き続き飯館村の代表選手として出場しました。●●さんの走りや頑強こそが、県民に勇気と希望を与えたことと思います。お疲れさまでした。来年も出場してくれることを楽しみにしています。ちなみに、3区に出場した●●町の●●●●選手（●●中3年／3000mの全国チャンピオンであり、中学生日本記録保持者）、男子区間（高校生・大学生・一般出場）で区間第1位でした。改めて、すごい選手であることが分かります。何と、この●●選手を指導しているのが●●さんのお父さん（●●中教）です。

大会当日は、本校駅伝部顧問の●●●●先生も応援に駆けつけてくれました。選手の皆さん、常に周り支えられながら、大会に出場できていることを忘れないでください。例えば、選手の皆さんが履いているシューズ、おそらく2万円はするものと思います。それも最低2足は持っているものと思います。お父さん・お母さん、ご家族の皆さんへの感謝の気持ちを絶対に忘れてはいけません。「我が子のために、自分のことは犠牲にしてまで」一生懸命に働いていらっしゃる。当たり前のことと思ったら、選手としても絶対に記録は伸びません。また、天狗になる・威張る・自分より弱い選手を馬鹿にするなどする選手も伸びませんし、人間としても失格です。さあ、また今日から頑張りましょうね！西中関係者が7名出場していることは、本当に素晴らしいことです。次は君たちの番ですよ！！

第62回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト

●●くん、おめでとう！文部科学大臣賞受賞！！

勿体ない精神を継ぐ

●● ●● (3の3)

2015年に国連で採択されたSDGsは、今や世界の至る所でその取り組みが行われており、日常生活を送る上でも良く耳にする様になった。しかし、世界が抱えている問題や課題を身近な生活に置き換えて、どう行動に移せば良いか、僕は悩んでいた。

僕は一年生の後期から生徒会役員として活動している。執行部の話し合いでも学校としてSDGsにどう取り組むか議題に出ることはあったが、具体的な策を実行するには至らなかった。このまま机上の空論で終わらせたくない思いが、生徒会長に就任した時に爆発した。しかし、一部の意識の高い生徒だけで始めるSDGsでは継続するのは難しい。身近な問題で全校生徒が気軽に参加出来る様な取り組みにする必要がある。そこで、SDGsゴール12番目の「つくる責任・つかう責任」に着目し、各家庭に散在している使うあてのない文房具や本を集め、必要としている人や施設に提供する取り組みを提案した。これは、買い置きしていたノートや文房具類などが、未使用の状態で机の中に放置され、結局捨ててしまったという話からヒントを得た。例えば、読書感想文を書くために購入する様な本は、役目を終えると日の目を見なくなることも多い。この様な、使われずに自分の机に眠っている物があれば、学校に持ち寄り回収する。一方で、回収した品の中からそれを必要とする人がいた場合は、一人が数点持ち帰って良いという方法だ。自分には不必要でも誰かの役に立つことで、使う責任を全う出来るのではないか。文房具の中にはプラスチック由来の製品も多くあり、廃棄することで家庭ゴミとなるロスを減らすことも出来る。身近な文房具や本も、限りある資源の一部であることを認識し、どの様な形であれ購入したものに対し、最後まで責任を持って使い切ることを、生徒一人一人に目指して欲しいと考えた。

この企画に賛同が得られ、学校として初の取り組みが始まった。早速、活動方法について放送や生徒会新聞、広告掲示にて全校生徒に呼びかけた。各家庭に対しては、活動内容の詳細をプリントにて配布した。コミュニティでも同市内のラジオ局や新聞で活動を紹介して頂けた。

しかし、宣伝と同時に進行しながら始まった、初回のSDGsの取り組みに参加した生徒は数えるばかりだった。手探りで始め、認知度もまだまだ低い状況だったが、もう少し手応えがあると予想していた為、この取り組みを継続出来るのか不安がよぎった。初回の開催での反省点を振り返り、改めてSDGsを身近に感じてもらう様に改善した。まず、宣伝用広告や大きなポスターを昇降口に掲示することで、目に触れる機会を多くした。次に、毎週決まった曜日に実施し、活動回数を増やしたり、生徒会新聞や放送を通じて活動状況を頻繁に報告したりする機会を増やした。その結果、SDGsの取り組みに興味・関心を示し、生徒会室に顔を出す生徒が増えてきた。先生方も、SDGsを授業に取り入れ、忙しい合間に回収品を提供しながら生徒会の活動状況を気にかけて下さるようになった。

僕達の生きる社会は便利で暮らしを豊かにしたが、その代償は目に見える形で姿を現してきている。想いを形にしたSDGsの取り組みは現在も進行中だ。今回の経験で失敗しても、初めから多くの支持が得られなくても、実際に行動を起こすことが大事なのだという事を取り組みの中で実感出来た。SDGsの概念が定着する前から、我々の身近には国や企業で行う活動や学校行事、日々の習慣として幾つも取り組まれてきた。そうした一人一人が踏み出す一歩が、これから先も続くであろう地球での豊かな暮らしへの軌跡を作るのだ。僕達が始めたSDGsの取り組みが、姿形を変えても母校の良き伝統として続けられることに期待したい。

さて、生徒の皆さん・保護者の皆さん、この文章を読んでどんなことを感じられたでしょうか。この文面の中にはいろいろなメッセージが込められています。まずは小さなことから・各家庭のできる負担のないものから実践してみたいかがでしょうか。また、日々の積み重ねの大切さも理解できました。

～本校ホームページのアクセス数が137万2千件を突破！いつもご覧いただきありがとうございます。～